

JR北陸線長浜駅を降り、西を望むと琵琶湖のすぐそばに天守閣をそなえたお城が見えます。この城は昭和58年(1983)に建てられた長浜市立長浜城歴史博物館です。付近には観光名所が数多くあり、休日は多くの人で賑わいます。この博物館がある場所は、今から400年ほど前に、羽柴(豊臣)秀吉の長浜城築城のために造成された土地なのです。博物館の近くには太閤井戸と呼ばれる井戸が湖面から顔をのぞかせ、長浜城の往時の様子が僅かに垣間見られます。天正元年(1573)、小谷城攻防戦にて活躍したことを認められ、小谷城主となった羽柴秀吉は、琵琶湖岸に新たな城を築き始めます。築城の地に選んだのは、天險の要害を利用した小谷城とは全く異なる地、湖岸沿いの「今浜」と呼ばれる所でした。

長浜城築城については、絵図や古文書などの史料はほとんど残っておらず、残念ながら築城当時の様子を知らず、はできません。秀吉の死後、

5年ほど山内一豊が在任しました。慶長11年(1606)には内藤信成が城主となり、元和年間(1615)1623)に廃城となります。やがて城の部材は彦根城築城の際に持ち出され、城跡は田畑になり、かつて繁栄した城の姿は、すっかり失われてしまいました。

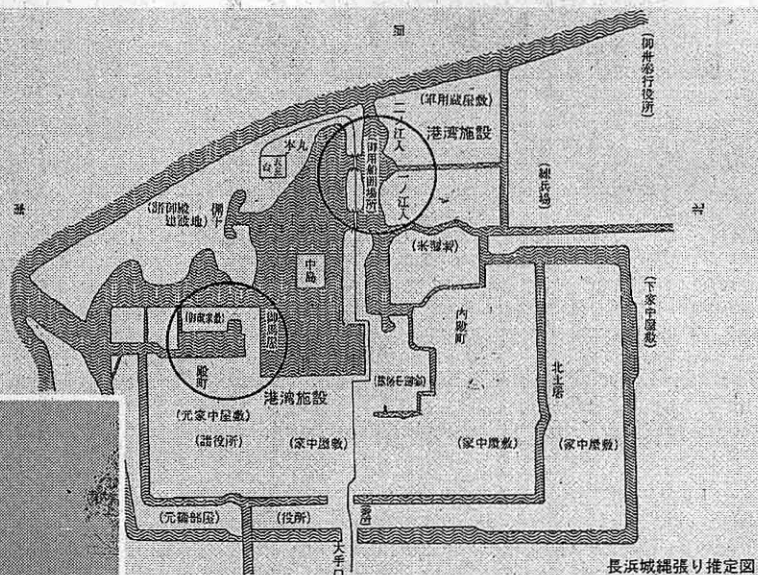
長浜城が存在したときの様子は史料から知ることができませんが、江戸時代の伝承や絵図、発掘調査などの研究が進み、次第に長浜城の様子が明らかになりつつあります。江戸時代中期の作といわれる『長浜町絵図』によると、長浜城は二重の外堀をもち、その内部に武家屋敷や鍛冶関係の施設、倉庫、港灣施設と思われる記載がみられます。中でも注目されるのは港灣施設です。城の中核的施設である天守北側の堀には、「御用船囲場所」という記載があり、発掘調査でも天守跡北で堀に向かって降りる階段状の石組が確認されています。また、天守の東には船入りと思われる場所があり、そこには「御

湖岸の水城 長浜城

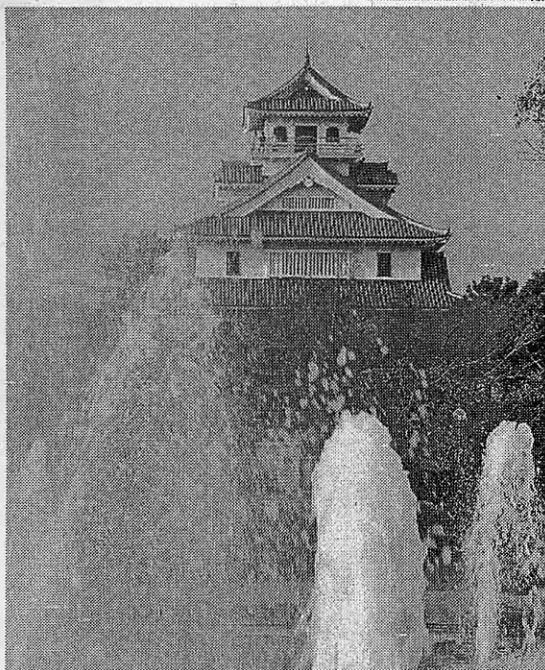
2つの港持つ水上交通の要衝

蔵家敷」と「御馬屋」の記載がみられます。

このように、長浜城は少なくとも2つの港を持っており、湖上交通を強く意識して築かれた城だったので。小谷城が山を利用した侵入者を拒むことを重視した山城であるのに対し、長浜城は湖岸を利用した、人・物資を受け入



長浜城歴史博物館⑥と長浜城縄張り推定図
— 県教委刊「中世城部分布調査6」からの引用



れることをも重視した水城であったのです。

県内の同様の城としては、明智光秀の坂本城と織田信澄の大溝城があります。いずれも織田家臣団の重臣が城主となっています。そして織田信長自らが城主となった安土城もまた、琵琶湖最大の内湖に囲まれた安土山に立地しています。長浜城をはじめとした水城築城には、湖上交通の掌握を通して天下統一を目論む信長の思惑が見え隠れしているといえます。

(滋賀県文化財保護協会 重田 勉)